

第2章

キャリア教育を実践しましょう

実践編 1

- 教員一人一人が教育活動のねらいと内容を再確認する

小学校におけるキャリア教育の進め方について示しています。

学級担任、あるいは、教科担任として、キャリア教育にどのように取り組めばよいのか、留意すべきことは何かという疑問があるとき、その解決の手がかりとして参考にしてください。

Q7

小学校では、どのようなことからキャリア教育を始めればよいのですか？

A7

児童の実態やこれまでに取り組んできた教育活動について、学級担任が、児童一人一人のキャリア発達を促すという視点で見直すことから始めることができます。

- 現在行っている教育活動が、児童一人一人の生き方や進路選択につながることを意識して、それぞれの活動のねらいと内容を確認し、指導や評価のポイントを整理しましょう。
- 学級担任は、学校における児童の生活の様子や各教科等の内容を継続的に把握できるので、その利点を生かした取組が望めます。



キャリア教育の視点で教育活動を見直す

- 1 各教育活動のねらいを確認する
- 2 キャリア教育の視点から育成が望まれる能力・態度を明確にする

職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

- 3 学習や活動を吟味し、指導と評価の要点を明確にする
- 4 事前や事後の指導や教育活動とのかかわりをおさえる
- 5 他の教育活動との関連や生活とのつながりを考慮する
- 6 ねらいの実現状況を評価する
(発揮している力、態度、認識の変容、意欲の向上など)

(評価の視点の例)

- ・働くことや学ぶことについてどのような気付きや意識の変容がみられるか
- ・どのような力を発揮しているか
- ・教科等の学習への関心や意欲につながっているか
- ・活動や体験、学習が児童の能力育成にどのようにつながっているか など

解説7 キャリア教育の視点から教育活動のねらいと内容を検討する

キャリア教育は、特定の領域、単元の一つではなく、教育活動全体に働きかけていく「機能」とであるという見方に立ち、各教科等のねらいを再確認し、学習内容や指導を充実させていくことに意味があります。

ここでは、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間とキャリア教育との関連について解説するとともに、既に行われている教育活動のいくつかを取り上げて、指導と評価のポイントを示しました。

この章で紹介する事例

頁	教科、領域等	概要	関連の深い能力			
			人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
20	国語 (中学年) 「十さいを祝おう」	伝えたい内容をはっきりさせ、友達との学び合いを通してコミュニケーション能力を高める。			○	
22	社会 (中学年) 「地域の安全を守る仕事」	働く人へのインタビューや見学の機会を生かし、社会への関心と情報活用能力を高める。	○			
24	理科 (中学年) 「電池の働きを調べよう」	電気の性質や働きについて学習し、生活を支えている科学技術への関心を高める。		○		
26	生活 (低学年) 「かぞくだいすき」	学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、役割の必要性に気付く。	○			
29	音楽 (中学年) 「様子を思いうかべてアレンジしよう」	グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや表現の多様性に気付く。				
32	体育 (中学年) 「けんこうな生活」	自分の生活を振り返り、健康によい生活のしかたを理解し、進んで行動する。	○			
36	道徳 (高学年) 「希望をもって」	総合単元的な道徳学習を通して、目標の実現を目指す道徳的实践力を高める。	○	○		
38	道徳 (中学年) 「働くことはだれのため」	日常生活における役割の経験を振り返り、働くことへ意識を高める。	○	○	○	
42	児童会活動 (全学年) 「運動会の成果を生活に生かそう」	運動会への取組について振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活に生かす。	○			○
44	学級活動 (中・高学年) 「自分を見つめよう」	友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる。		○		
49	総合的な学習の時間 (中学年) 「地域で働く人から学ぼう」	地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える。	○		○	○



教科の学習とキャリア教育との関連

教科を通じて身に付いた力が、キャリア教育で育てたい力につながる

キャリア教育は、各単元、各時間のねらいをつくり変えるのものではなく、新たなねらいを付け加えるものでもありません。各教科で育成したい力、単元や授業のねらいを明確にし、確かな学力を身に付けさせることが基本です。

学校教育で身に付けた能力や態度を、現在及び将来における様々な選択場面や生き方にどのように生かしていくかという視点を持ち、キャリア発達にかかわる能力育成の場として各教科の学習を位置付け、一人一人の発達を支援することを意識して指導を充実させていくことが重要です。

「学ぶこと」「働くこと」「生きること」のつながりを意識して指導に当たる

教科の学習は、児童一人一人の生き方や将来の進路と深く結び付いています。教科の学習を通して、日常の生活経験だけでは得られない科学的な見方や考え方を学んだり、様々な人の生き方について知ったりして、自分の可能性を広げることができます。

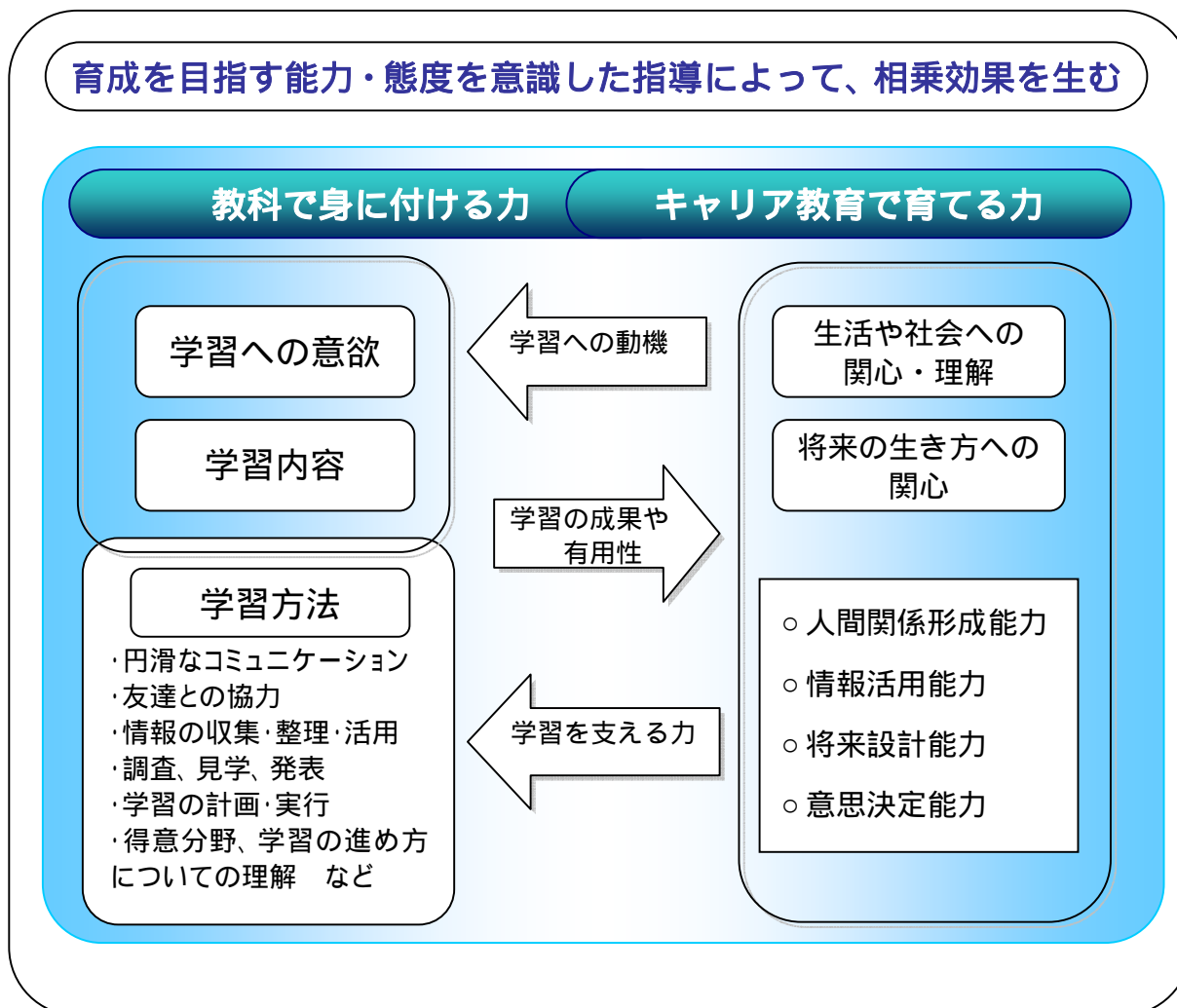
児童が、自分のよさや可能性に気付いたり、人生を切り拓くきっかけを得たりすることができるように、「学ぶこと」「働くこと」「生きること」のつながりを意識して指導に当たしましょう。教師は、人生の先輩としての自分の経験を生かしながら、児童が願う方向に導くという重要な役割を担っています。

良好な人間関係が、他者とともに学ぶ楽しさの実感や自信につながる

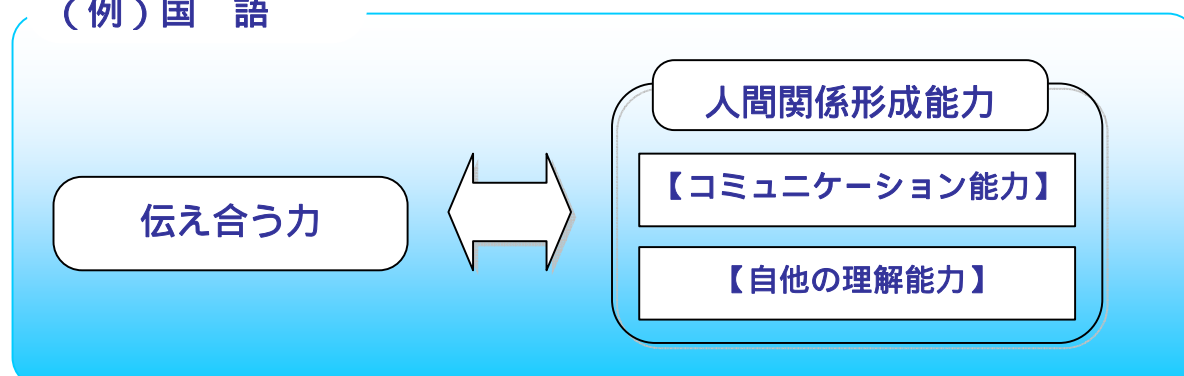
幼少期の子どもは、何を勉強するかということ以上に、だれと勉強するかということが大きく影響します。先生が好き、親しい友達がいる、そういうことに惹かれて勉強に入っていく、次第に勉強の面白さが分かって、やる気が出てくることです。人間関係的な要因がベースになって、学習も充実していきます。こうしたことは、社会に出て仕事をする際にも共通するというのを、児童に伝えるのも大事なことでしょう。

- 教科の学習とキャリア教育

育成を目指す能力・態度を意識した指導によって、相乗効果を生む



(例) 国 語



表現力は円滑なコミュニケーションのためには不可欠な技能である。また、コミュニケーションが豊かであれば、お互いに啓発したり共感したりして一人一人の個性や学力が磨かれる。

【事例1 国語科】 「十さいを祝おう」(中学年)

友だちとの学び合いを通して、コミュニケーション能力を高める

自分の気持ちや考えを分かってもらいたいという思いや、相手を理解しようとする態度は、人間関係を築く基盤であり、社会生活を営む上で必要となるコミュニケーション能力の育成においても、「話すこと・聞くこと」の指導は重要です。特別活動や総合的な学習の時間との関連を図るなど、実践的な活動の場面を設けることで、目的意識や学習意欲を高めることができます。

ねらい

- 思い出に強く残っていることやがんばっていること、将来の夢などから話題を選び、自分の思いが聞き手に伝わるように、話の組み立てや表現方法を工夫して発表する。
- 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめる。

キャリア教育の視点

- ・ 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。
- ・ 友達の気持ちや考えを理解しようとする。 【コミュニケーション能力】

展開例

- 「十さいを祝う会」の計画を話し合う。【学級活動】
- スピーチの準備をする。(活動例1)
- スピーチの練習をする。(活動例2)
- 「十さいを祝う会」を開く。【学級活動】
- 学習の振り返りをする。



活動例1 「スピーチの準備をしよう」

- 1 家族へのインタビューや友達との対話などを通して、これまでの自分を振り返ったり、夢や目標について考えたりして、伝えたい相手と内容をはっきりさせる。

10年間を見つめよう 4年 組()	
【生まれたころ】 身長 cm 体重 g	【十さいの今】 身長 cm 体重 g
【エピソード】	【入学前の思い出】
【伝えたいこと】 (伝えたい相手) ・強く思い出に残っていること ・夢や目標 がんばっていること など	
【伝えたい相手】	

自分のどんな思いを、だれに伝えたいか、何を中心に話すかということが明確になるよう、友達と対話させたり、ワークシートを活用させたりしながら、身近な人とのかかわりという視点でこれまでの自分や大切にしていることを見つめ直したり、夢や目標について考えさせたりします。

自分が生まれたときのエピソードや入学前の思い出などは、家族などに話を聞いて書くよう働きかけます。

- 2 話したいことを箇条書きにし、組み立てを考えながら、スピーチメモを作る。

活動例 2

「友達と協力してスピーチの練習をしよう」

- 1 聞き手に思いが伝わるよう心がけて練習する。
- 2 2人組やグループでスピーチを聞き、お互いにアドバイスする。
 - ・ さらによいスピーチにするために、聞き手は、よく分からなかったことやもっと知りたいことを質問したり、感想を伝えたりする。
 - ・ 話し手は、聞き手とのやり取りやメッセージカードを参考にして、必要があれば発表会に向けて原稿を修正したり、小道具を用意したりする。

メッセージ欄には、話し手の伝えたいことがどう伝わったかを書くように指示しておきます。話したことが相手に伝わる喜びを味わわせ、伝え合うことへの意欲を高めるようにします。

メッセージカード

スピーチの題名 () さんへ () より

友達のスーピーチを聞いてよいところを見つけましょう。(たいへんよい。よい)

話し方

大きな声ではっきりと話していましたか。()

ゆつくりと、間を取って話していましたか。()

分かりやすさ

どんなことを伝えたいかが分かりましたか。()

理由やきっかけがはつきりしていましたか。()

聞きたいと思うような工夫をしていましたか。()

メッセージ

初めて試合に勝ったときうれしくてとび上がった様子が、よくわかりました。練習で百球も投げていてすごいですね。プロのピッチャーになれるようにがんばってね。

他の教育活動との関連

【道徳】

主として自分自身に関すること

【特別活動】

・ 自分を見つめる
・ 十さいを祝う会

【日常生活】

朝の会の1分間スピーチ、各教科におけるコミュニケーション

指導と評価のポイント

- ・ 学級活動の「自分を見つめる」との関連を図り、自己理解を深めさせたり、目標にしている人ややってみたい仕事に関する情報を集めさせたりして、伝えたい内容をはっきりさせます。
- ・ 伝えたいという気持ちを高めるために、学級活動の時間などを活用して「十さいを祝う会」を開きます。家族やお世話になった人にも発表会に参加してもらうよう働きかけて、メッセージカードを活用して発表内容や表現について評価してもらったり、発表者と聞き手が対話する場面を設けたりするとよいでしょう。

(評価の視点の例)

話の組み立て、話し方のスキル、聞き手を惹き付ける工夫とその効果など

【事例2 社会科】 「地域の安全を守る仕事」(中学年)

見学やインタビューを通して、働く人や社会への関心を高める

自分たちの生活が、多くの人たちの努力や働きによって支えられ、成り立っていることを知ることは、自分と社会とのつながりに気付き、社会の一員としての自覚を高めることにつながります。働く人の様子を観察したり話を聞いたりする活動を取り入れ、実感を伴った理解を図るとともに、情報収集・探索能力を高めるようにします。

ねらい

- 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について、見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。

キャリア教育の視点

- ・ 自分たちのくらしを支える職業や仕事があることを知り、働くことの意義や、働く人の思いを考える。【情報収集・探索能力】
- ・ 自分の生活を支えている人に感謝する。【自他の理解能力】

「仕事を通じて社会とつながること」や「他者や社会に役立つことの尊さ」に気付くよう、働く人に直接話を聞く機会を生かしましょう。



展開例

「消防しょの仕事調べよう」(消防しょの見学)

- 火災発生時の対応について知りたいことを話し合う。

どうやって火事を消すのかな？



火事が起きたときに、早く現場に駆けつけられるのはどうしてかしら？



- 消防署見学の計画を立て、見たり聞いたりしてくることを決める。

- 消防署を見学し、消防士の話を聞く。

すごいなあ。
ぼくも大人になったら
消防士になれるかな。



消防士の仕事
では、どんなこと
が大切ですか？

素早く消火できるよ
う、ふだんから訓練をし
たり設備の点検をしたり
しています。仕事をする
上では、チームワークも
大切です。



- 見学で見たり聞いたりしたことを学習カードにまとめ、発表し合う。(活動例)

活動例 見学で見たり聞いたりしたことを学習カードにまとめ、発表し合う

見学の観点を確認し、見学して調べたことを学習カードに書かせます。

消防しょを見学しよう *見たものを絵や文でかいておこう。

【見てくるもの】

- ・消防しょのようす（せつび、道具など）
- ・仕事のようす

消防しょの人の仕事について調べよう	
【全員が調べること】	メモ
1 どんな仕事がありますか。 （火事にそなえて、どんなことをしていますか）	消防車や道具の点けん、 くんれん、地いきの見まわり
2 火事の現場では、どんなことに気をつけていますか。 （大切なことは何ですか）	命を守る（自分、仲間、助ける人） けがをしない、チームワーク ひがいを広げない
3 どんな人が協力するのですか [わたしのしつもん]	けいさつ、消防団、
1 うれいしいのは、どんなことですか。	火事
2 どうして、消防士になったのですか。	
3	

【わかったこと、考えたこと】

消防士の○○さんは、命を守ることが一番大切で（助けを求めている人、自分、仲間）、チームワークが大事だといっていました。だから、消防しょの人たちは、ふだんから訓練をしたり消防車の点けんをしたりしているのだとわかりました。

この例では、全員が調べることのほかに、自分が知りたいことを書かせています。消防士や消防団員に質問したり、各自が調べたものを発表し合ったりするなど、自らが他者に働きかけ、必要とする情報を収集する経験を積ませることが大切です。



他の教育活動との関連

【国語】

- ・メモを取りながら聞く
- ・調べた事柄について説明する

【道徳】

主として集団や社会との
かわりに関すること

【特別活動】

- ・避難訓練
- ・当番の仕事や係活動

指導と評価のポイント

- ・国語の学習との関連を図り、相手や目的に応じ筋道立てて話すことや、話の中心に気を付けて聞くことを意識させます。また、事前に質問を考え、インタビューの仕方を練習させるなど、主体的な情報収集ができるよう指導します。
- ・消防署の人の話などから、働くことの意義や自分の生活とのつながりについて考えさせ、自分にできることを話し合わせるようにします。

【事例3 理科】 「電池の働きを調べよう」(中学年)

身の回りで使われている電池を調べる活動を通して、生活を支える科学技術への関心を高める

身の回りに使われている電気器具について実物や資料を調べることにより、様々な種類の電池が利用されていることを実感を伴って理解できるようにします。授業では、実験や友達との話し合いなどを通して、目に見えない電気の性質や電流が流れる仕組みについて理解できるよう支援し、生活とのかかわりに関心をもたせながら科学的な考え方を深めるようにします。

ねらい

- 電気による現象を、電気の働きと関係付けながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、電気の性質や働きについての見方や考え方を養う。
- 個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果を日常生活で見られる自然事象の理解に生かすようにする。(内容の取扱いについての配慮事項)

キャリア教育の視点

- ・自分の考えをみんなの前で話す。 【コミュニケーション能力】
- ・自分のよいところを見付ける。 【自他の理解能力】
- ・友達のよいところを認め、励まし合う。

展 開 例

- 身近な電気器具から電池を探す。《課題発見、予想》
 - ・家や学校にある電気器具に電池が使われていることを調べる。(活動例)

各自が調べてきたことをグループで情報交換する活動を取り入れ、意見やアイデアを積極的に出し合えるようにします。そうすることで、理科の学習が深まるとともに、自他のよさを認め合える具体的な素材を得ることができます。
- 「直列つなぎ」と「並列つなぎ」が、身近な電気の器具に実際に利用されているかどうか確認する。《観察・実験・検証》
- 現在使われている電池やその用途について、インターネットや図書館の本などで調べる。《深化・発展・応用》



活動例

身近な電気器具に電池が使われていることを調べる

○ ワークシート（グループ用）

- ・ 電池を使っている電気の器具をさがしてみよう。
- ・ 電池を使っていると知ったできごと、カードに書きましょう。

テレビリモコン（Cさん）
おとして電池をだしてしまった。

ゲーム機（Bさん）
買ってもらったとき、自分で電池をいれた。

マイク（Aさん）
先生がとりかえていた。

かいちゅう電灯（Bさん）
自分でとりかえた。

ガスコンロ（Dさん）
おかあさんが教えてくれた。

めざまし時計（Aさん）
電池をとりかえたら動くようになった。

○ 家で調べてくるもの

Aさん：めざまし時計、・・・

Bさん：かいちゅう電灯、・・・

各自が具体的な意見を提案しやすいように、カードに書かせてから発表させます。カードには名前を書かせ、自他の意見やアイデアを尊重する意識をもたせるようにします。

他の教育活動との関連

【道徳】

主として他の人とのかかわりに関すること

【社会】4年→5年

廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、人間関係

指導と評価のポイント

- ・ 「電気の性質や働きについての見方や考え方を養う」ことが最も重要なねらいです。「+、-」の電極やつなぎ方に着目させながら、身近な電気の器具の利用につなげるようにしましょう。

発問例：「調べた器具の ♀、⊙ や電池のつなぎ方を絵に表してみよう。」

- ・ 時代とともに、「性能」、「安全性」、「環境への影響」などの視点から、技術革新が行われています。新しい電池の開発によって産業が変化したことが、調べ学習や見学を通して分かります。第5学年の社会科の内容である「様々な工業製品が国民生活を支えていること」に関連付けて発展的に扱うと効果的です。

課題例：「どのような電池が、工場で作られたり、お店で売られたりしていたか、数十年前（1960年代、1970年代）と現在を比べてみましょう。」

- ・ 見いだした問題の追究やものづくりの過程で、一人一人が工夫したり、アイデアや意見を出し合ったりすることを大切にします。

意見の取り上げ方の例：「それは「○○さん」の工夫したアイデアですね。」

【事例 4 生活科】 「かぞくだいすき」(低学年)

学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、役割の必要性に気付く

家庭での生活を振り返り、家族との触れ合いや手伝いなどを通して、家庭の温かさや家族の大切さを感じとり、家族の役割や仕事の分担に気付いて自分にできることを積極的に実行できるようにします。家族の役に立っているという実感が、子どもたちに働くことの意味を教えます。

ねらい

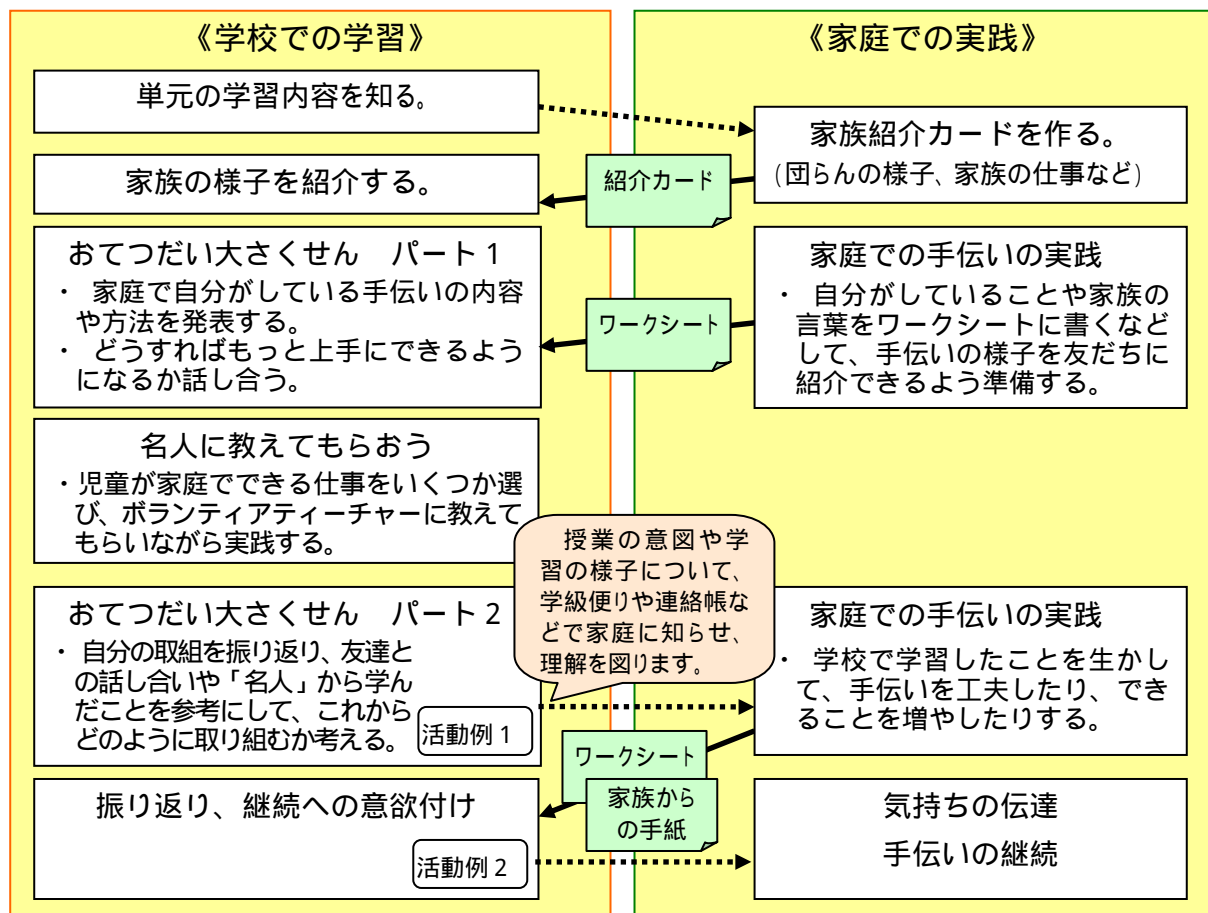
- 家族の仕事や役割に興味をもち、進んで自分にできることを行おうとする。
- 家族の仕事や自分がした手伝いの様子を、自分なりの方法で表現することができる。
- 家庭生活が家族によって支えられていることや、家庭における自分の役割に気付くことができる。

キャリア教育の視点

- ・ 家の仕事の内容や役割の大切さに気付き、手伝いや家族のため自分ができることを実行する。【役割把握・認識能力】
- ・ 家族に守られ助けられていることに気付き、家族に感謝の気持ちをもつ。【自他の理解能力】

展 開 例

家庭の協力を得て学習を進めます。



活動例 1

「おてつだい大さくせんパート2～もっとできることはないかな～」

1 「おてつだい大さくせんパート1」の活動を振り返る。

- 家庭での手伝いの様子を振り返ったり、ワークシートを見直したりして、これまでの自分の取組について発表する。
- 友達の発表を聞いて気付いたことや感想を伝える。

家族の役に立った経験を自覚させることは、自信や意欲につながります。「役割把握・認識能力」との関連を考慮し、家の手伝いや役割の必要性にも気付くよう、助言したり授業の展開を工夫したりします。

- 名人（ボランティアの方）に教えてもらったことを振り返る。

「名人に教えてもらおう」で体験したお手伝いについても、ビデオの視聴や話し合いなどを通して、がんばれた自分を振り返らせ、パート2の計画に生かせるようにします。

おてつだい大さくせんパート1 11月4日(日) はれ
1ねん くみ ()

【おふろそうじ】

わたしは、おふろあらいをがんばりました。よこのかべとゆかをきれいにしました。あらったあとは、つるつるになりました。

おうちの人から
あゆみ おふろそうじをしてくれてありがとう。きれいなおふろにきれて、きもちがよいですよ。おかあさんより

先生から： おふろそうじができてすごいですね。あゆみさんが、きれいにしてくれたので、おうちの人には喜んでますね。

2 「おてつだい大さくせんパート2」の計画を立てる。

この單元では、家庭とのやり取りを重視しています。自立に必要な力を身に付けていくことの大切さや家庭の役割について、保護者に再確認してもらう機会となるよう、学級便りや保護者会等で授業のねらいを伝えます。

家族と話し合う機会をもち、活動への意欲を継続できるよう、ワークシートを作成するなど、具体的な働きかけを工夫することで、役割把握・認識能力やコミュニケーション能力の育成を図ります。

おてつだい大さくせんパート2
～もっとできることはないかな～
1ねん くみ ()

1 パート2でがんばりたいことをかきましょう。 11月22日

せんたくものたたみ

2 パート2でがんばることについて、おうちではなしたことをかいてもらいましょう。 11月25日

「めいじんに、どんなたたみかたをおしえてもらったのですか？おかあさんにもおしえてね。」と伝えました。 母より

~~~~~

3 おてつだい大さくせんパート2をしてみてもうだったかな？ 月 日



## 活動例 2

「おてつだい大きくせんをしてみてくださいどうだったかな」



- 1 これまでの活動を振り返る。
- 2 家族からの手紙を読み、感じたことを書いたり発表したりする。

家の人から「ありがとう」と言われた時の気持ちや、これからのお手伝いについて考えたことを表現させたり、「ワークシートに書いたことや友だちと話したことを、家の人にも話してみよう」という課題を与えたりして、コミュニケーション能力の育成と意欲の継続化を図ります。

あゆみちゃんへ

あゆみちゃん まい日、せんたくものを  
たたんでくれて、ありがとう。しそがしい  
ときなど、とてもたすかります。

きがえやつくえのせいとんなども、ひと  
りでできるようになって、おかあさんは  
とてもうれしいです。

おかあさんより

感謝の気持ちを子どもに伝えることが大切であることを、保護者会や学級通信などで説明しましょう。

「ありがとう」「たすかった」という言葉によって、働く喜びを実感することができます。自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどを実感することで、もっとがんばろう、よりよく成長しようという気持ちをもつことができます。ちょっとした気配りや行動が社会でも通用することを伝えるのもよいでしょう。子どもが自信を積み重ねていけるよう、周囲の大人がかかわっていくことが大切です。

## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

- 主として自分自身に関すること
  - ・ 自分でできることは自分ですること
- 主として他の人とのかかわりに関すること
  - ・ 家族の一員としての自覚をもち、お手伝いをする

### 【日常生活】

- ・ 係活動や当番活動、清掃など
- ・ 生活や学習における様々な役割の経験

## 指導と評価のポイント

- ・ 家庭との連携を図り、子どもの活動を見守り、感謝の気持ちを伝えたり、努力を認め励ましたりすることをお願いしておきます。

(例) 保護者会、学年・学級便りなどで、単元のねらいを説明する。

生活科で、「かぞくだいすき」という家族の役割を考える学習をしています。家族の役割を考え、家族に感謝する気持ちを育てたいと考えています。

自分が家庭でできそうな仕事を家でやってみよう指導していきます。はじめは上手にできないこともあるかと思いますが、そのときは「もう少しこうできるといいね」とアドバイスをあげてください。そして、「手伝ってくれてありがとう。たすかるよ。」と声をかけてあげてください。

- ・ 単元の学習は終わっても、折に触れて計画を立てさせたり、自己評価させたりすることにより、家庭での手伝いの継続化を図ります。

(例) ・冬休みのがんばりカードに、お手伝いの項目を設ける。  
 ・1年生の終わりの時期に、お手伝いについても振り返らせる。  
 ・2年生年度始めの目標カードにお手伝いの項目を設ける。

## 【事例5 音楽科】 「様子を思いうかべてアレンジしよう」(中学年)

### グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや表現の多様性に気付く

この題材は、音楽的諸要素に着目して楽曲をアレンジする活動を通して、音楽的な感受性や表現力を高めることをねらいとしています。アイディアを出し合って変奏し、音楽が変化する面白さを感じ取ることは、感受する能力が高まるとともに、自他のよさを認め合うことにつながります。

#### ねらい

- 旋律や歌詞からイメージを広げ、リズム、速度、拍子、強弱などを変化させて表現を工夫し、演奏することができる。

#### キャリア教育の視点

- ・ 自分たちの表現の工夫と他の班のよい点に気付き、認め合う。
- ・ 多くの人に親しまれてきた原曲のすばらしさに気付く。【自他の理解能力】

#### 展開例

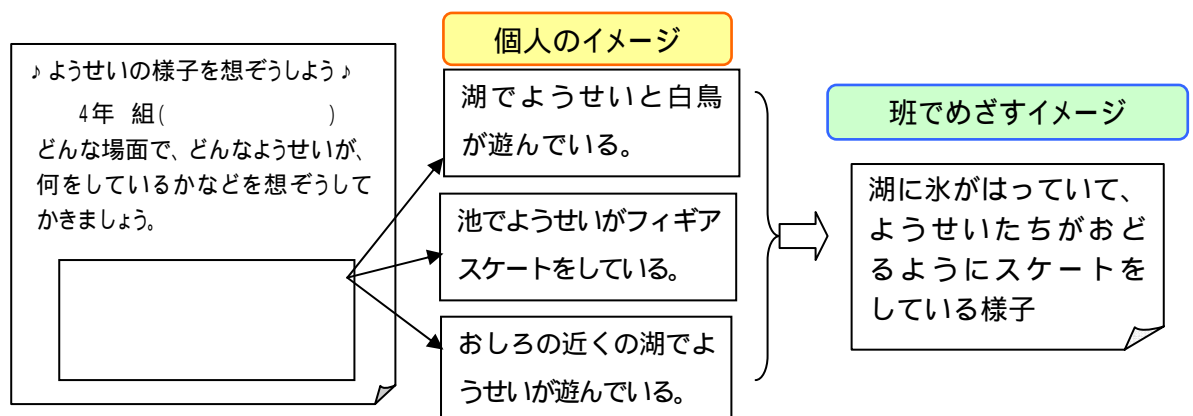
使用教材 「オーラリー」ジョージ プールトン作曲

- 主旋律、副次的な旋律を練習し、二重奏をする。
- 表現したい情景と妖精の様子を班で話し合う。(活動例1)
- めざすイメージに向かって表現を工夫し、練習する。(活動例2)
- アレンジした「オーラリー」を発表し鑑賞し合う。

#### 活動例1 「ようせいの様子を想ぞうして、めざすイメージを決めよう」

- どのようなイメージの曲にしたいかを記入したカードを持ち寄り、班で目指すイメージを話し合って決める。

一人一人の思いをできるだけ生かすために、教師は事前にカードを読み、同じようなイメージをもっている児童と一緒に活動できるよう班を編成します。



一人一人が書いたイメージを発表した上で、話し合うよう助言します。意見を生かせない場合でも、個人のイメージカードは学習の経過として残しておきます。

個人の意見をもち寄ってグループのイメージを決めるときには、身体表現や絵画に表すことで、イメージを具体化しやすくなります。また、音楽的諸要素による効果を知らせる授業を事前に行うことで、どんな表現の工夫があるかを考えてイメージを決める参考にさせることができます。

## 活動例2 「めざすイメージに向かって表現を工夫しよう」

- グループで決めたイメージを音楽で表現するために、どの音楽的諸要素に着目して、どのように表現を工夫するかを話し合っ

| 班でめざすイメージ |                                    | 表現の工夫 |                                |
|-----------|------------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 班       | 夏の森で、ようせいたちが、かっこいいダンスをしている様子       | ..... | 八分音符で打楽器ばんそうをいれて、ロック調にしよう。     |
| 2 班       | 晴れた日に、ようせいが森の中で楽しそうにスキップをしている様子    | ..... | 付点のリズムにして、はねる感じを表現したい。         |
| 3 班       | 湖に氷がはっていて、ようせいたちがおどるようにスケートをしている様子 | ..... | 3びょう子にして、なめらかにふいて、ゆうがな感じを出したい。 |

イメージにより近付くようにアイディアを出し合っ

## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

- ・主として自分自身に関するこ
- ・主として他の人とのかわりに関すること

### 【日常生活】

帰りの会での善行の発表、人間関係

### 指導と評価のポイント

- ・ イメージ作りの過程では、個人の思いを埋没させないために、一人一人が思い描いたイメージを出し合い、班で表現するイメージに生かすことを大切にします。
- ・ 原曲をアレンジする活動を通して、自分たちのオリジナルの曲ができた喜びを味わうとともに、一つの楽曲でも、工夫次第で個性的な演奏ができることを知り、表現することの楽しさに気付くことができます。アレンジした曲に個性が生まれることのよさと、様々なアレンジを可能にする原曲のすばらしさに気付くことは、多様な美しさをもった様々な音楽を尊重することにつながるものです。
- ・ アレンジした作品を鑑賞し合う場面では、演奏者が「イメージや工夫した点」を発表してから演奏する方法と、「イメージや工夫した点」を告げずに演奏し、聴き手のもったイメージと演奏者が意図したイメージを比べる方法があります。後者では、聴き手は、演奏者のイメージにとらわれず新鮮な気持ちで鑑賞でき、新たなイメージが生まれることが期待できます。

#### 【鑑賞後の意見交換の例】

A：ワルツを踊っているような感じがしました。

T：なぜ、そう感じたのですか。

A：なめらかで、流れるように聴こえたからです。

B：ぼくも、踊っているように感じました。それは、3拍子だったからです。

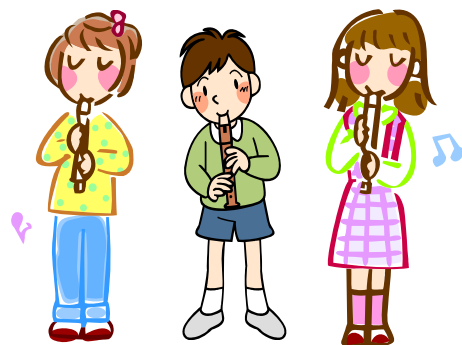
T：言われてみると、そのようにも想像できますね。では、3班の人から、イメージと工夫点を聴きましょう。

C：私たちのめざしたイメージは、「湖に氷が張っていて、妖精たちがスケートをしている様子」です。工夫した点は、3拍子にして、なめらかに吹いたことです。

T：3拍子にしたのは、誰のアイデアですか。

C：Dさんです。

T：Dさん、いいアイデアでしたね。Aさん、Bさんも表現のよさに気付き、様子を思い浮かべて聴けましたね。



## 【事例 6 体育科】 「けんこうな生活」(中学年)

### 自分の生活を振り返り、健康によい生活の仕方を理解する

体育の授業は、体力の向上や健康の維持など、生活の基盤づくりに大きな役割を果たします。規則正しい生活をするためには、十分な睡眠や偏りのない食事、適度な運動といった基本的なことに加えて、「あいさつ」や「返事」、「家の手伝い」、「学習」や「読書」の習慣なども重要です。

#### ねらい

- 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。
  - 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。

#### キャリア教育の視点

- あいさつや返事をする。【コミュニケーション能力】
- 学習等の計画を立てて実行する。【計画実行能力】
- 自分のことは自分で行い、自分の仕事に責任をもつ。【課題解決能力】

#### 展 開 例

- 生活カードを記入し、1日の生活について振り返る。(活動例)
  - 健康な生活を送るために大切なことを考え、話し合う。
  - 自分の生活について気付いたことを発表し合う。
  - 規則正しい生活について考える。
  - 自分の生活に当てはめて、生活のめあてを立てる。
- 生活調べを行い、結果を表にまとめて、リズムある生活について考える。
  - なぜ身の回りを清潔にしなければいけないのか考える。
  - 手についた細菌の資料などから手洗いの方法などを考え、話し合う。
  - 実践していくための計画を立てる。
  - 空気を入れ換えなかったり、部屋を暗くしたりして生活するとどうなるか考える。
  - 資料をもとに健康を守るためにどんな人がどんなことをしてくれているか考える。
  - 健康な生活について分かったことや気付いたことを書く。



## 活動例

生活カードを記入し、1日の生活について振り返る

振り返ったことが日々の生活に生かされるよう、自分の生活の様子をできるだけ具体的に記述させます。

(生活カードの例)

■ 毎日どんなすごし方をしているかな。

自分の1日の生活を思い出して、いつもしていることに○をつけてみましょう。

|    | ○の<br>らん | いつもしていること          | ○がつけられないわけ           |
|----|----------|--------------------|----------------------|
| 1  |          | 朝早く、きまった時間に一人でおきる。 | おかあさんにおこされることが多い。    |
| 6  | ○        | 元気にあいさつする。         |                      |
| 7  | ○        | すすんでべんきょうする。       |                      |
| 9  |          | 友だちとなかよく遊ぶ。        | 友だちと口げんかをしてしまうことが多い。 |
| 12 | ○        | 家ぞくの人と話す。          |                      |

なかよく遊べないときの様子を、具体的に書かせています。

【先生から】

ともだちと口げんかをしてしまったときどうしたらよいか。口げんかしないようにするにはどうすればよいか、学級会で話し合ってみましょう。みんなで考えて、よいアイデアを見つけましょう。

その教科の授業だけで解決しようとせず、特別活動につなげようとしています。

## 他の教育活動との関連

【道徳】

主として自分自身に関すること

【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、人間関係

## 指導と評価のポイント

- ・ 家庭や学校での生活全体を振り返らせることが大切です。
- ・ 人間関係形成能力、将来設計能力、意思決定能力の観点から、児童生徒の言動を把握していきます。(例:「あいさつ」、「言葉づかい」→「人間関係形成能力」の指標)
- ・ 特別活動と関連付けたり家庭と連携したりするなどして、指導を継続します。



## 道徳教育とキャリア教育との関連

### 社会性を伴う価値観形成を目的とし、教育活動全体を通じて行う

道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することは、キャリア教育の視点からも重要です。道徳的価値や自他についての理解を深めていく中で、児童自らが成長を実感し、これからの課題や目標を見付けていくこと、また、自己や社会の未来に夢や希望をもち、よりよく生きようと努力することを支援する取組を、教育活動全体を通じて行っていくことが大切です。

### 道徳の内容項目は、いずれも生き方にかかわりキャリア教育につながる

道徳の内容項目は、いずれもよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指すという点で社会的自立に必要な能力・態度の育成につながるものです。また、例えば、「主として自分自身に関すること」と「主として他の人とのかかわりに関すること」は、人間関係形成能力の育成に深くかかわるなど、キャリア発達にかかわる能力・態度との関連も明確になります。

### 日常生活での様々な役割の経験をもとに、「道徳の時間」に自己の生き方を考える

小学校段階では、遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、勤労生産的な活動や地域での活動等の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくことが重要です。日常生活における様々な役割遂行の経験を積み重ねながら、内面的な価値形成に深くかかわる道徳の時間との関連を図ることで、自己の生き方を考えることができるようになっていきます。

● 道徳教育とキャリア教育

社会性を伴う価値観の形成を目指す

道徳教育の目標

道徳性の育成

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

（「小学校学習指導要領 第3章 道徳」より）

道徳の内容構成の視点

- 1 主として自分自身に関すること。
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること。
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

キャリア発達

勤労観・職業観の育成

（例）4つの能力領域

- 人間関係形成
- 情報活用
- 将来設計
- 意思決定

学校教育全体を通じて行う

家 庭

地域社会

## 【事例7 道徳の時間】 「希望をもって」(高学年)

総合単元的な道徳学習を通して目標の実現に向けて努力しようとする実践力を高める

夢の実現を目指して努力する人の姿や働く人の姿を通して、真剣に取り組むことの大切さや将来について考え、自己の可能性を広げるために学習や生活を充実させていく力を高めていくことが望めます。道徳の時間を中心に、教科、特別活動、総合的な学習の時間を関連させた学習を展開することで、将来の生き方につながる価値についての自覚を深めるとともに、日常生活の中でも意識して取り組むことが期待できます。

### ねらい

- より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。1 - (2)

#### キャリア教育の視点

- ・ 将来のことを考える大切さがわかる。【将来設計能力】
- ・ 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。【意思決定能力】
- ・ 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。【自他の理解能力】

### 展開例

| 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 活動への支援・留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 資料・準備                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 事前の学習で目標をもって努力している人について調べたことを振り返る。<br>2 資料「祥雲寺のしだれ桜」を読んで話し合う。<br>T 25年間もの間、祥雲寺の桜をよみがえらせる仕事を続けてきた佐藤さんを支えたものは、何だったのでしょうか。<br>(1)一人で考え、ワークシートに書く。<br>・ 仕事を任された責任感<br>・ 最後まであきらめない粘り強い心<br>(2)グループごとに話し合う。<br>・ 桜をよみがえらせたという希望<br>・ 住職や多くの人のしだれ桜への思い<br>・ 自分の経験や技術を信じる心<br>・ 強い生命力をもった桜を守りたい気持ち<br>・ よみがえったしだれ桜を見たいという希望<br>(3)発表をもとに全体で話し合う。<br>・ 佐藤さんも田村亮子選手も、周りの人の励ましを支えとなっていた。<br>・ 佐藤さんもイチロー選手も、自分の力を信じてチャレンジしているところが似ている。<br>3 佐藤さんの話のVTRを視聴する。<br>4 自分を振り返り、自分の夢や目標、これからの取組について考える。<br>T 心のノートに書いた自分の目標や夢を実現するために、これからの自分はどうしていきたいかを考えて書きましよう。<br>・ 今まではすぐにあきらめてしまっていたので、これからはあきらめないでがんばりたい。<br>・ 夢を実現するために今自分ができることの一つ一つに全力で取り組んでいきたい。 | ・ 目標に向かって努力してきた人について調べたことを思い出すことで、ねらいとする価値への方向付けをする。<br>・ 自分が調べた人と佐藤さんを比べながら考えられるよう助言し、学習の見通しが立てられるようにする。<br>・ 佐藤さんが出会った困難や苦労について確認をしてから、話し合いに入る。<br>・ 小グループでの話し合いを通して、道徳的価値の内面的自覚を深めさせる。【コミュニケーション能力】<br>・ 話し合いの中で、自分と友だちとの考えの相違点があっても、理解するために質問をするなどして、互いの考え方に共感できるようにさせる。<br>【自他の理解能力】【コミュニケーション能力】<br>・ 共感できる考えについては自分のワークシートに記入させ、考えを深めることができるようにする。<br>・ 事前の学習で自分が調べた人と佐藤さんとを比べ、その共通点を見出すことで、より深く道徳的価値について考えられるようにする。【情報活用能力】<br>・ 撮影してきた佐藤さんの話を視聴させることにより、目標に向かって希望をもって努力していこうとする気持ちを高めたい。<br>・ 佐藤さん、自分が調べてきた人、自分のそれぞれの生き方を比較して、今までの自分はどうか、これからの自分はどうかしていきたいかを考えさせ、心のノートに記入させることで、実践への意欲を高める。<br>【将来設計能力】 | ・ 心のノート<br>・ 調べ学習プリント<br>・ 祥雲寺のしだれ桜の写真<br>・ 佐藤さんの写真<br>・ ワークシート<br>・ 調べ学習プリント<br>・ 心のノート<br>具体的な能力・態度を意識して指導に当たることによって、それぞれの学習活動のねらいが明確になり、適切な支援につながります。 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ・ 心のノート                                                                                                                                                  |

## 他の教育活動との関連

|                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級活動<br/>「5年生になって」</li> <li>・学級や学校生活の充実を目指して話し合う</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳 1 - ( 6 )</li> <li>・自分の特徴を知って、よいところを積極的に伸ばす。</li> </ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習<br/>「地域の文化遺産を知ろう」</li> <li>・祥雲寺のしだれ桜を見ながら住職の話聞くことにより、しだれ桜の生命力の強さやその美しさを感じるとともに、長年にわたり桜を守り育ててきた地域の人々の思いや努力について知る。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事「運動会」</li> <li>・目標に向けて努力するとともに、高学年としての役割を果たす。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳 1 - ( 2 )</li> <li>「最高で金メダル、最低でも金メダル」</li> <li>・より高い目標を立て、その実現のために自分のもっている力を精一杯発揮して、努力しようとする意欲を高める。</li> </ul>                  |                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科</li> <li>・国語の漢字練習や図工や家庭科の作品作り、体育の泳力認定など、目標を達成したりよりよいものを作り上げたりする喜びや大切さを学ぶ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別学習</li> <li>「目標や夢を実現するために努力している人について調べよう」</li> <li>・家族や地域の人に取材をしたり、伝記などを読んだりして、いろいろな人の生き方や考え方について調べる。</li> </ul>                 |                                                                                                                                                                            |
| <p>本 時 主題名 「希望をもって」 1 - ( 2 )</p> <p>資料名 「祥雲寺のしだれ桜」(自作資料)</p> <p>ねらい 目標を立て、希望と勇気をもって取り組もうとする心情を育てる。</p>                         |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科</li> <li>・体育のなわとび認定や持久走大会などで自分の目標に向かって努力していくことの大切さを学ぶ。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級活動</li> <li>「友達の輝きをみつけよう」</li> <li>・自分の目標や夢を自由に語り合いながら、友達相互の信頼感を深めていく。</li> </ul>                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習</li> <li>「世界遺産日光を知ろう」</li> <li>・世界遺産がどのように守られているのか、その様子や人々の苦勞、願い、夢などについて調べる。</li> </ul>                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童会活動</li> <li>・全校児童集会の企画運営を行うことを通して、自主的な態度や実践力を高める。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習の時間 「○○小のよきリーダーになろう」</li> <li>・学校生活のリーダーとしての仕事や心がまえを学ぶとともに、6年生を送る会の企画運営を行う活動を通して、役割を果たすことや目標に向かって努力していくことの大切さを学ぶ。</li> </ul> |                                                                                                                                                                            |

## 指導と評価のポイント

- 授業で学んだことを、家庭や学校における日常生活の中で意識して実践できるよう、指導を継続していくことが大切です。
  - ・ 朝の会の1分間スピーチで自分ががんばっていることなどを話題にしたり、学級活動で自分の夢について語り合う時間を設けたりして、目標に向けて努力していけるよう支援する。
  - ・ 授業で書いたワークシートや心のノートを持ち帰り、夢や目標について、またそれに向かって努力することについて家族と話し合い、感想などを書くように促す。
- 本時の資料だけではなく、自ら情報を収集・探索することを通して、様々な人の考えや生き方を知ることができるよう指導します。



## 【事例 8 日常的な生活場面】 「働くことはだれのため」(中学年)

### 日常生活における役割の経験を通して働くことへの意識を高める

働くことは、自分を成長させると同時に、人の役に立つことでもあります。日常生活の様々な場面で働く経験を重ねることによって、家庭や学級における自分の役割に気付き、家族や友達との絆を深めたり人の役に立つことのできる自分を感じたりして、働くことへの意識を高めるとともに、自分にできることを見つけ、進んで取り組むことができるようになります。

#### ねらい

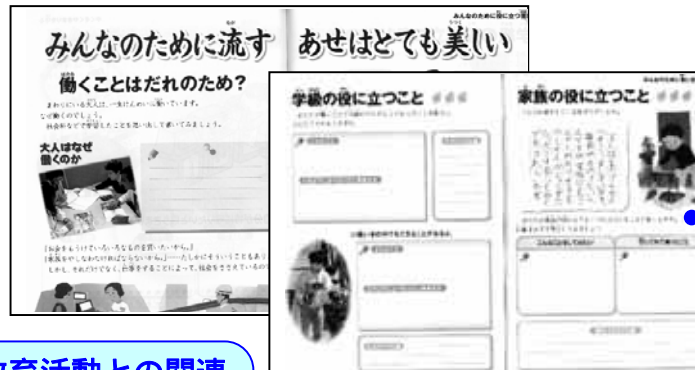
- 働くことの大切さを知り、進んで働く。4 - (2)
- 自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げる。1 - (3)

#### キャリア教育の視点

- ・ 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。【役割把握・認識能力】
- ・ 係や当番活動に積極的にかかわる。働くことの楽しさが分かる。【職業理解能力】
- ・ 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。【課題解決能力】

#### 展開例

- これまでの経験を振り返ったり、友だちと話し合ったりして、家庭や学級で自分にできることを「心のノート」に書く。



保護者からの感想や励ましの言葉を記入してもらうなどして、家庭での役割や決まりを守ることが、学校における様々な立場や役割への積極的な取組につながっていくようにします。

#### 他の教育活動との関連

##### 【社会科】

- ・ 生産や販売にかかわる仕事
- ・ 人々の安全を守る仕事の工夫や努力

##### 【日常生活】

- 様々な役割の経験
- ・ 当番の仕事や係活動
- ・ 清掃や奉仕作業

#### 指導と評価のポイント

- ・ それぞれの立場において役割を果たしていくことが自分にとってどういう意味や価値をもつのかということを考えさせ、働くことへの意識を高めていくようにします。
- ・ 実践したことを、随時、記入させることにより、決められた係活動や当番の仕事以外にも進んでできることを見つけたり、視野を広げたりできるようにします。

● キャリア発達にかかわる諸能力と関連の深い内容項目

|                    | 道徳の内容                                      |                                                                 |                                                                                           | キャリア発達にかかわる諸能力               |
|--------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                    | 第1・2学年                                     | 第3・4学年                                                          | 第5・6学年                                                                                    |                              |
| 1 自分自身に関すること       | (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。           | (3) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。                                    | (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。<br>(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改め、よい所を積極的に伸ばす。                   | 人間関係形成能力<br>将来設計能力<br>意思決定能力 |
| 2 他の人とかかわりに関すること   | (1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。      | (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。                                 | (1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。                                                             | 人間関係形成能力                     |
|                    | (3) 友達と仲よくし、助け合う。                          | (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。                                         | (2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。<br>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。                | 人間関係形成能力                     |
|                    | (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。                    | (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。                           | (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。                                             | 人間関係形成能力                     |
| 4 集団や社会とかかわりに関すること | (1) みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。                | (1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。                                        | (1) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。<br>(2) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。 | 人間関係形成能力<br>意思決定能力           |
|                    | (2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 | (2) 働くことの大切さを知り、進んで働く。<br>(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。 | (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。<br>(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。   | 人間関係形成能力<br>将来設計能力<br>意思決定能力 |

道徳の内容項目は、児童生徒の発達段階などを考慮し、最も指導の適時性のある内容を学年段階ごとに精選し、重点的に示したものです。したがって、項目間の関連性をもたせるとともに、低学年から中学年、高学年、さらに、中学校への発展を考慮し、計画的、発展的な指導を行うことによって、児童生徒のキャリア発達を効果的に支援することができます。



## 特別活動



### 特別活動とキャリア教育との関連

特別活動の目標は、キャリア教育が目指す職業観・勤労観の育成と深い関連がある

特別活動は、学校や学年や学級という集団活動を通して協調、責任、役割、貢献を学び、社会参画の力や人間関係形成の力を育てる領域です。特別活動の目標である「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことは、キャリア教育の目指す能力・態度と深い関連があり、学級活動や勤労生産・奉仕的行事など、キャリア教育と共通する内容が数多くあります。

社会性の育成は、社会的な自立を目指すキャリア教育のねらいと一致する

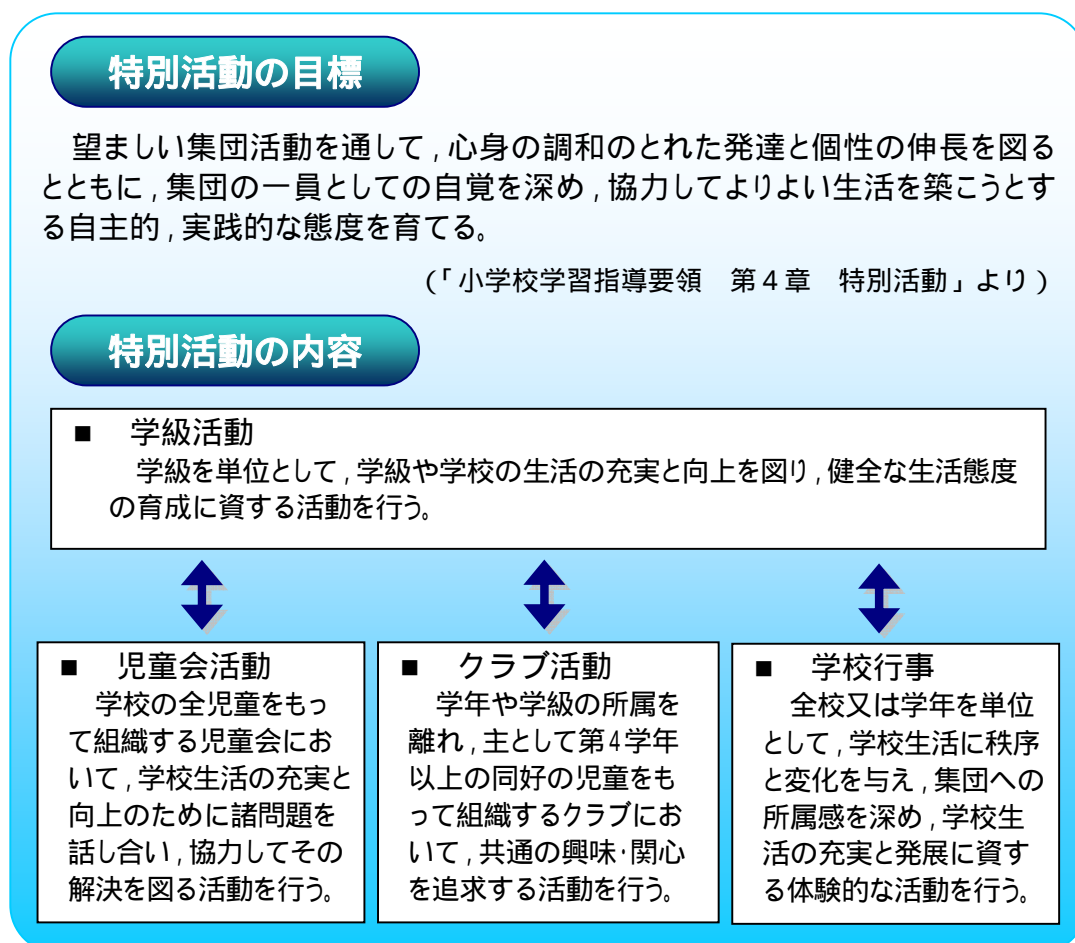
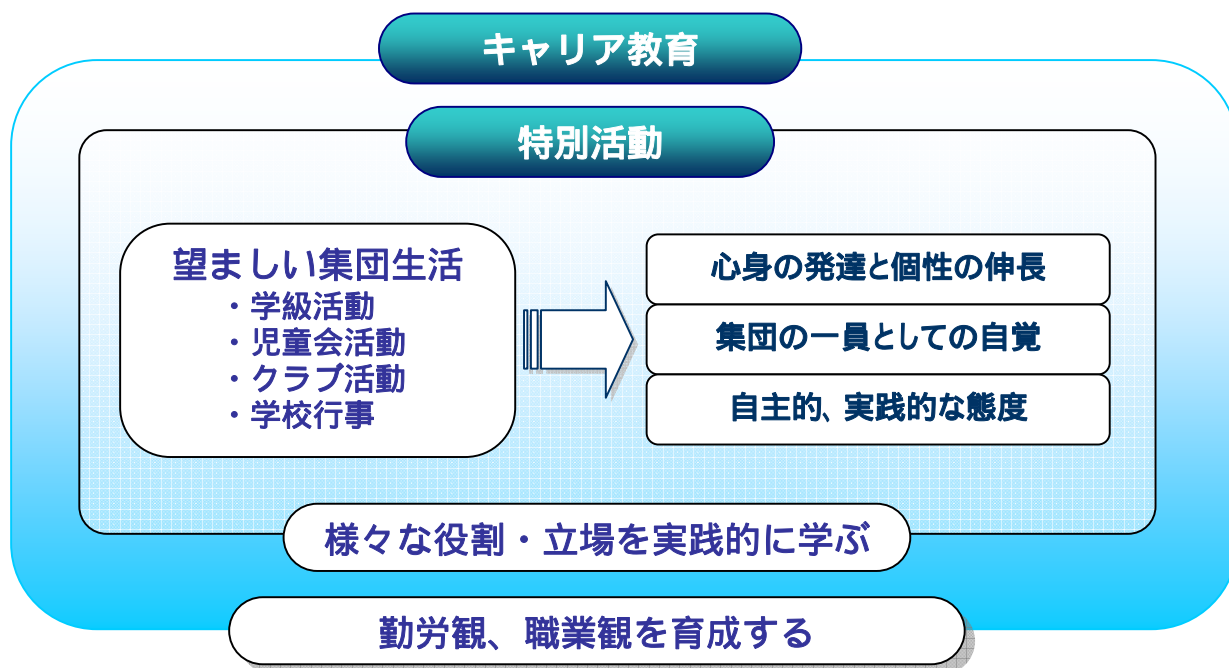
社会性は、集団生活において、児童一人一人が自分の役割や責任を果たすことにより、確かなものとして身に付いていきます。豊かな社会性を身に付けるためには、児童が互いの特性を認め合う中で、与えられた役割を自覚し、責任をもって仕事を果たす経験を積み重ねていく場や機会が必要です。協力して身の回りの諸問題を解決しようとする意欲を高めたり、問題解決に必要な知識や技能を身に付けたりできるよう、発達段階に応じた指導の充実が望まれます。

自主的・自治的に問題を解決する特別活動の内容は、キャリア教育実践の核になる

特別活動は学級や学校という集団の中で発生してくる生活上の問題を自主的、自治的に解決することを主な学習内容としています。児童にとって学校は生活の場であり、解決しなければならない問題は身の回りの現実的な問題です。

児童一人一人がこれまでの経験を生かし、それぞれの力を発揮し、望ましい集団活動を通して、教え合い、学び合い、助け合いながら実践的に取り組むことができるよう、支援することが大切です。

- 特別活動とキャリア教育



## 【事例 9 児童会活動】 「運動会の成果をこれからの生活に生かそう」(全学年)

### 運動会への取組について振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活に生かす

学校行事や集会活動などの体験を振り返って、自分を見つめたり、喜びや気付きを語り合ったりして互いの体験を共有することは、自他のよさに気付くとともに、集団の一員としての自覚を深め、実践力の向上につながるものと考えられます。体験を通して学んだこと、努力してやり遂げた感動とその力を日常の生活や学習に役立てることができるよう、事後の活動や指導の内容を工夫します。

#### ねらい

- 児童集会への主体的な取組を通して、自主性と社会性を養い、個性の伸長を図る。  
キャリア教育の視点
  - ・ 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たす。【コミュニケーション能力】
  - ・ 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解する。【職業理解能力】
  - ・ 目標の実現やよりよい生活を目指して努力しようとする。【課題解決能力】

#### 展開例

- 全校児童が体育館に集まり、録画した運動会の準備、練習、当日の様子を視聴する。
- 代表の児童が自分の取組や学んだことを発表し、他の児童にも発言を呼びかける。
- 運動会を振り返り、がんばったことやうれしかったこと、これからの生活に生かしたいことなどを発表し合う。

全校集会の場で自分の思いや決意を語って、他者に聞いてもらう体験を通して、学校の一員としての所属感や自己肯定感を高めます。



- ・ 運動会でがんばったことやうれしかったことを教えてください。
- ・ 運動会で学んだことをこれからの勉強や生活にどのように生かそうと思いますか。
- ・ 新たな目標やがんばろうと思うことはありますか。
- ・ これからどんなことに取り組みますか。

初めて、応援団に入って、5年生や6年生と一緒に大きな声で応援しました。自分は赤組だから、赤組が勝つと応援が通じたみたいですごくうれしかったです。応援合戦でほかの色にエールをおくるのも気持ちがよかったです。応援すると自分も元気になります。これからは、自分のクラスだけでなく、1年生や2年生と遊んだり、いろいろ教えてあげたりしたいです。



## 他の教育活動との関連

### 【特別活動】

- ・ 学校行事「運動会」
- ・ 学級活動

### 【国語】

- ・ 伝え合う力

### 【道徳】

- ・ 主として自分自身に関すること
- ・ 主として集団や社会とのかかわりに関すること

### 【図画工作】

- ・ 心に残ったことを表現する

### 【日常生活】

- ・ 当番の仕事や係活動
- ・ 清掃や奉仕作業

## 指導と評価のポイント

- ・ 「自分たちの集会である」という思いをもって活動できるよう、集会の計画・準備・運営等はできるだけ児童に任せるようにします。
- ・ 教師は、低学年・中学年・高学年の発達課題と育成を目指す能力を意識して指導に当たり、児童が、自主的・自治的な活動を通して、立場や役割についての自覚を深めたり協力して活動に取り組んだりできるよう支援します。

### （例）【役割把握・認識能力】

低学年・・・割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。

中学年・・・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。

高学年・・・仕事における役割の関連性や変化に気付く。

異年齢集団の活動に進んで参加し、役割や責任を果たそうとする。

- ・ 努力してやり遂げた達成感や協力することの楽しさ、他者に認められる喜びを実感することは、肯定的な自己理解や自己有用感につながり、自信になります。
- ・ 道徳の時間に、体験を想起したり自分の生活を振り返る場面を設けたりして、内面化を図ります。作文や振り返りカードに整理して記録に残すことも、感動や充実感を再構成させるのに有効です。
- ・ 集会の様子や児童の作文を学校便りや掲示物等で紹介し、保護者や地域の人々の感想を児童にフィードバックしたり、卒業生を招いて小学校時代の経験がどのように役立っているかなどということについて話を聞いたりするのもよいでしょう。



## 【事例 10 学級活動】 「自分を見つめよう」(中・高学年)

友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる

夢や希望、憧れる自己イメージを獲得することは、自分の将来に対して前向きに考え、積極的に行動することにつながります。友達との交流を通して、自己への気付きや自己決定を促すとともに、好ましい人間関係の醸成に努めます。

### ねらい

- 自己を見つめる活動を通して、自己の理解を深め個性の伸長を図る。  
(学級活動の内容(2)(ア)希望や夢をもって生きる態度の育成)  
キャリア教育の視点
- 他者の多様な個性を理解し、自己理解を深め、互いに認め合うことを大切にして行動する。【自他の理解能力】
  - ・自分のよいところを見付ける。
  - ・友達のよいところを認め、励まし合う。

### 活動例 1 「自分の“好き”を見つける」

- 1 次の質問について思い付くことを書く。

好きな食べ物は何ですか？  
好きな音楽はどんな音楽ですか？  
好きなスポーツは何ですか？  
好きな科目は何ですか？  
尊敬している人、好きな人は誰ですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんなときですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんな場所ですか？  
自分が笑顔になったり、うれしくなるのはどんな人と一緒にいるときですか？  
今までにあった一番うれしかったことは何ですか？  
自分のどんなところが好きですか？  
どんなことが得意ですか？  
どんな人に憧れ、自分もなりたと思いますか？



教師が質問を読み上げて、答えをノートに書かせるほか、「心のノート」を活用したり、ワークシートを作成して記入させたりしてもよいでしょう。

- 2 二人組みで、好きなものを聞き合ったり、発表したりする。  
どのような答えも共感的に受け止め、違いを認め合うよう助言します。

## 活動例2 「自分のイメージを探る」

- 1 「自分は〇〇です」の〇〇に、自分で自分のことをどう思っているかを書く。
- 2 自分が書いた一つ一つのイメージに、プラスイメージ(+)またはマイナスイメージ(-)の印を付ける。
- 3 マイナスイメージをプラスイメージに書き換える。  
 プラスの言葉に書き換えることが難しい児童には、具体的な場面を思い出したり、友だちの考えを聞いて参考にしたりするとよいことを助言します。

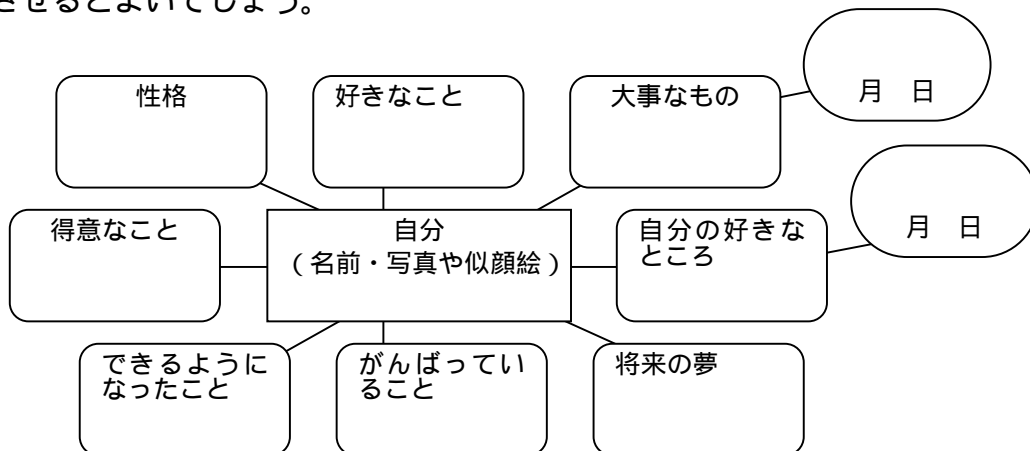
| 自分のイメージをさぐろう<br>自分で自分のことをどう思っているか書いてみましょう。 |                           |                    |
|--------------------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 「自分は〇〇です」を書く                               | プラスイメージ(+)<br>マイナスイメージ(-) | プラスイメージに書きかえる      |
| (例) 自分は、まじめです<br>自分は、おとなしいです               | +<br>-                    | やさしい、              |
| 自分は、 <b>せっかち</b> です                        | -                         | <b>時間を大切にする</b>    |
| 自分は、 <b>やさしい</b> です                        | +                         |                    |
| 自分は、 <b>おしゃべり</b> です                       | -                         | <b>場をもりあげる</b>     |
| 自分は、 <b>おこりっぽい</b> です                      | -                         | <b>ストレスをためこまない</b> |
| 自分は、 <b>動物が好き</b> です                       |                           |                    |
| 自分は、<br>自分は、                               |                           |                    |

マイナスのイメージをプラスに書き換える作業を通して、同じことでも、見方によってずいぶん違ってくものだという事に気付くことができます。肯定的なものの見方や考え方は、社会に出てからも役立ちます。



- 4 自分についてのイメージマップを作成する。  
 自分の成長や変化を感じることができるよう、項目や具体的な内容は、随時、書き加えさせるとよいでしょう。

(例)



## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

主として自分自身に関すること

### 【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、  
人間関係の構築

### 【図画工作】

見たこと、感じたこと、  
想像したことを絵や立体に表す

## 指導と評価のポイント

- ・ 共感的な言葉や問いかけ、友達との交流などを通して、自分自身への気づきを引き出し、自覚化させていくことが重要です。
- ・ 自分に対するイメージを固定的にとらえるのではなく、視点を変えてみたり、新たな気づきや事実を書き加えさせたりするなどして、このような人になりたいという自己の可能性を広げることができるようにします。

### （言葉かけの例）

- ・なるほど。いいね！　すごいね！　かっこいいね。
- ・うれしいな。　〇〇が喜ぶね
- ・よく知っているね。　もうこんなにできたんだ。
- ・それで大丈夫だよ。　できることからでいいよ。　自分のやり方でいいんだよ。
- ・やると決めたらできると思うよ。　自分で決めたとおりに進めてごらん。



### （問いかけの例）

- ・今、気になっていることは何？　今、どんなことを感じている？
- ・…してみようと思った？
- ・次に何をしたい？
- ・何をしているときが一番楽しい？
- ・あなたにとって大切なものは何？
- ・そのことについてもっと話して。
- ・よく知っているね。どうして知っているの？
- ・未来(〇年後、〇才)のあなたは、何をしているかな？
- ・そのときの自分や周りの人はどんなようすかな？
- ・どんな〇〇になりたいの？(どんな〇〇だったら素敵だと思う？)
- ・どんな社会に住みたい？
- ・大人になったときに、地球はどうなっていてほしい？日本(あなたが住んでいる町)はどうか？
- ・夢をかなえるために何をする？

- ・ 自分をじっくり見つめ、人とのかかわりの中で自己認識を深めていくことは、より具体的な進路指導が要求される中学校においての、「自分を見つめる」ことや「自分と社会とのかかわりを考える」指導に深く結び付きます。

## 総合的な学習の時間



### 総合的な学習の時間とキャリア教育との関連

#### 総合的な学習の時間とキャリア教育のねらいは一致する

総合的な学習の時間のねらいには、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断すること」や「問題の解決や探求的活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」が示されています。これらは、「社会の一員として自立的に自己の人生を方向付ける」というキャリア発達の中心になる考え方に直結します。

教科指導においては、キャリア教育との関連を限定的にとらえがちですが、総合的な学習の時間を活用することで、より広くキャリア教育を展開することができます。

#### 地域の大人の姿を見せ、様々な活動をしている大人とかかわる機会を生かす

年齢や価値観が異なる他者とかかわり、様々な考え方や生き方があることを知ることは、学ぶことの意義を再確認し、進路や生き方についての選択肢を広げることになります。地域には、ボランティアとして仕事をしている人もいれば、趣味を生かして活動している人、社会的な役割をもって生きている人など、様々な人がいます。総合的な学習の時間には、そうしたいろいろな大人の姿を児童が見て、直接とかかわる場面を設けたいものです。仕事やその人の生き方に触れて、自分もそうなりたと思うなど、大人と自分の生き方を結び付けて、現在や将来について考えることのできる絶好の機会です。

#### 活動のねらいをはっきりさせ、教師と児童が体験の意義を理解して取り組む

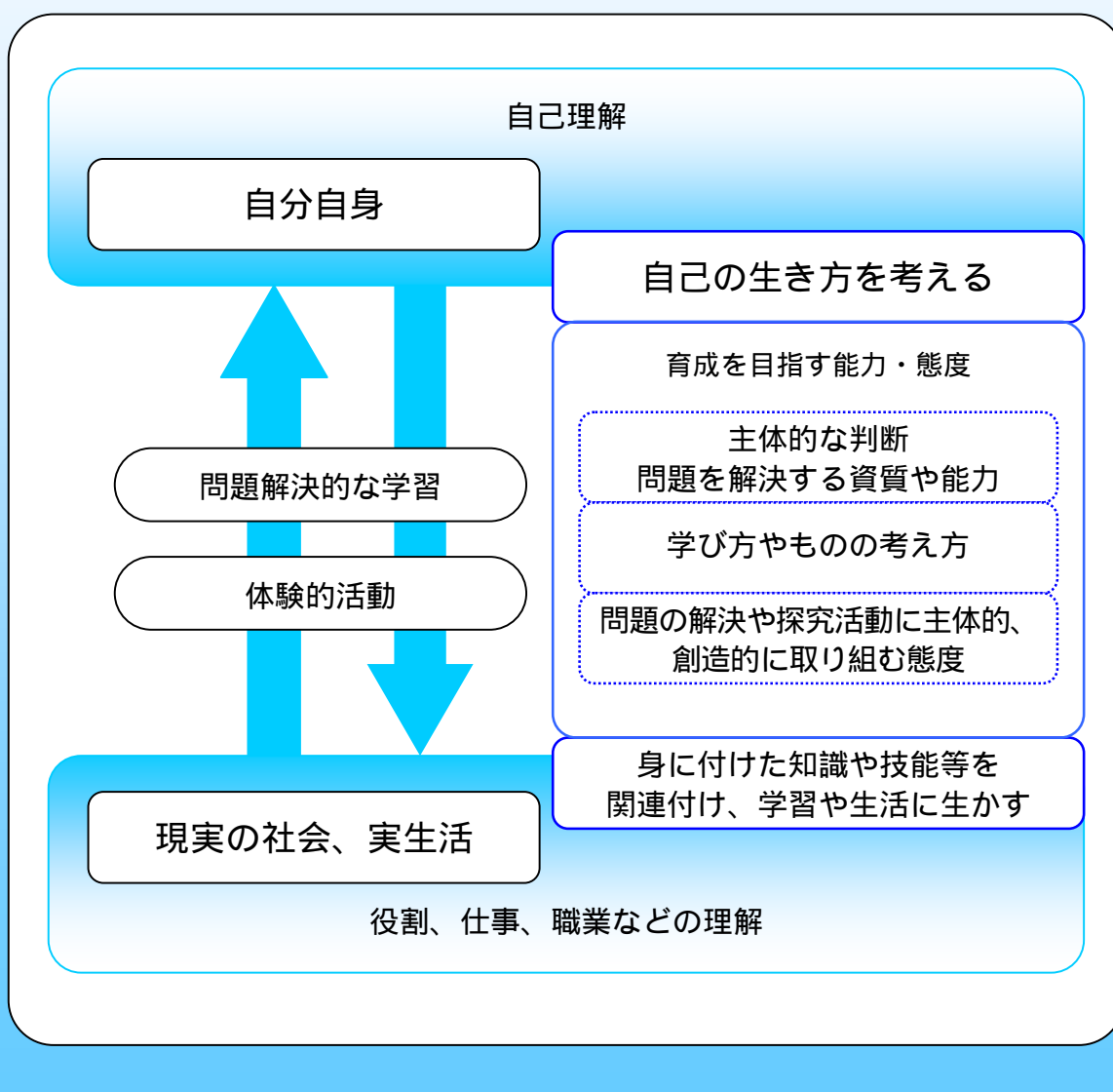
「勤労観・職業観の育成」の意味を狭くとらえ、総合的な学習の時間に、新たに職業に関する体験的活動を取り入れることでキャリア教育とすることのないよう気を付けましょう。これまでの実践の成果を確認し、児童が人や社会に働きかけ、自分で調べたり考えたりして、学び取ったことを自分なりに意味付けることが大切です。総合的な学習の時間で職場見学や体験等を行う場合には、キャリア発達の能力・態度の育成という視点を踏まえ、活動のねらいを明確にして内容や方法を検討します。体験の意義や重要性を理解した上で、勤労観や職業観を育成する一つの道具や場面として活用するという考え方が必要です。

- 総合的な学習の時間とキャリア教育

## 総合的な学習の時間のねらい

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
- (3) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

(「小学校学習指導要領 第1章 総則」より)



## 【事例 11 総合的な学習の時間】 「地域で働く人から学ぼう」(中学年)

地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える

地域の人々とは、運動会や地域の祭りなどで出会うことはありますが、働く姿に触れる機会は意外に少ないものです。児童が地域に出て学習をする場合は、農家や工場などの見学というスタイルが一般的ですが、農産物の直売所のような受け入れ先が見つかれば、手伝い程度であっても、ぜひ、児童に体験させたいものです。

### ねらい

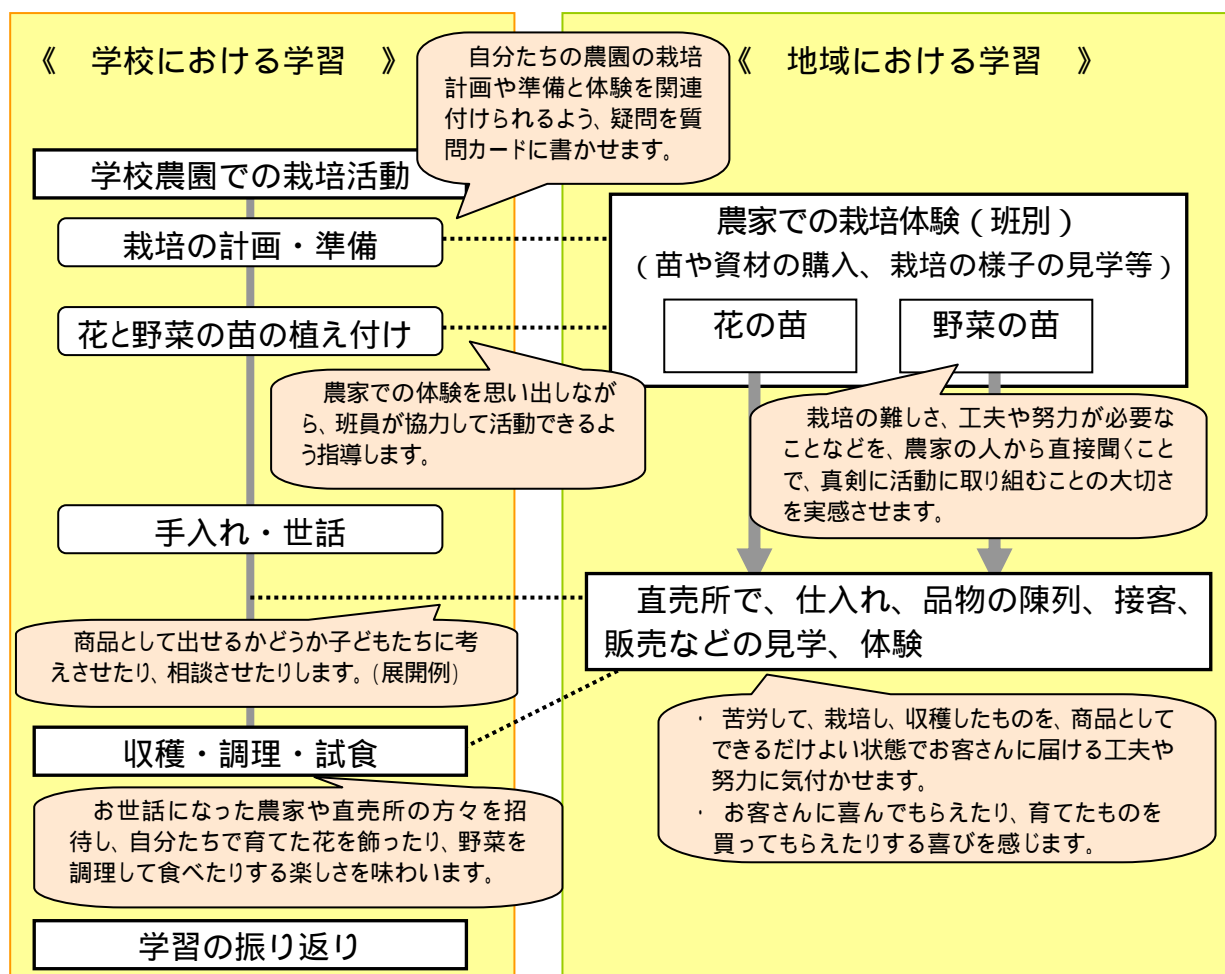
- 地域の人とのかかわりを通して、ものを作る仕事や売る仕事に携わる人々の思いや願いに共感できる。
- 栽培から販売までの過程の工夫について進んで調べることができる。

#### キャリア教育の視点

- ・ 栽培から販売活動までを体験することを通して、働く中で工夫したり努力したりすることの大切さや、働くことの喜びを知る。【情報活用能力(職業理解)】
- ・ 農家や直売所の方の話を聞いたり、ふれあったりすることにより、農家の仕事や農産物を売る仕事に関心をもつ。【コミュニケーション能力】

### 展開例

学校での学習と地域での体験を並行して進めます。

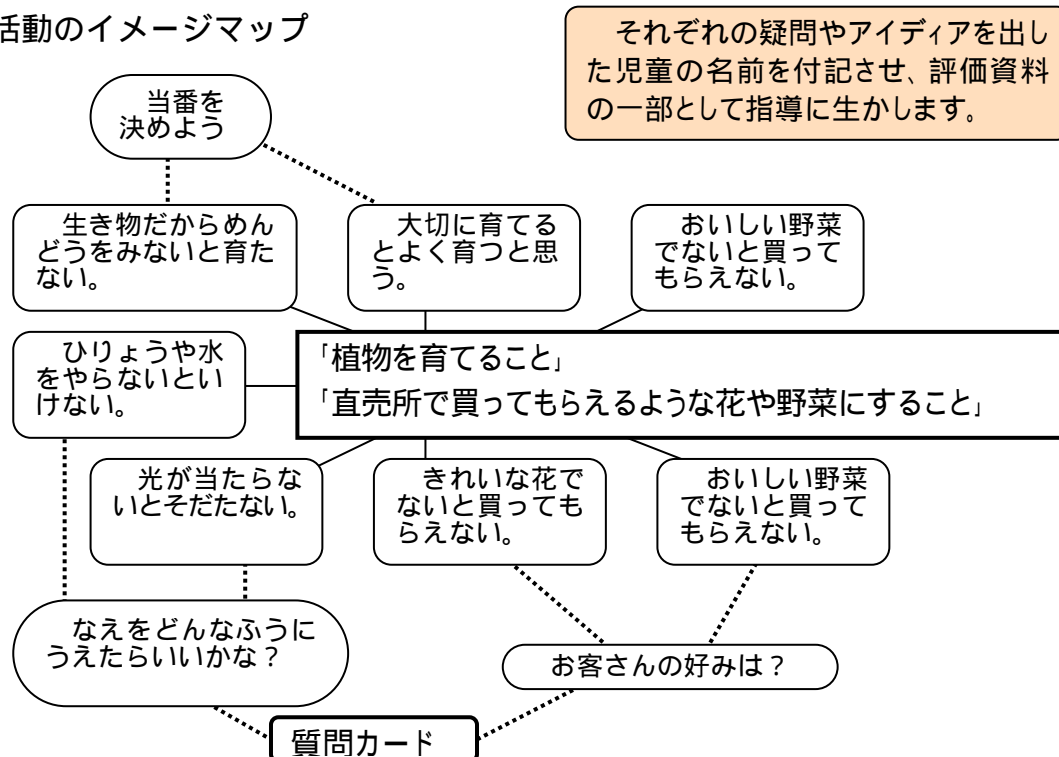


## 活動例

「育てた花や野菜を売ること」について意見を出し合う。

- 栽培と販売の両方の課題を関連付けてイメージマップを作成する。  
項目や具体的な内容は、随時、書き加えさせるなどして、自分たちの気付きの変化や成長を感じることができるようにします。

## (例) 活動のイメージマップ



## 他の教育活動との関連

### 【道徳】

- 主として自分自身に関すること
  - ・ 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる
- 主として他の人とのかかわりに関すること
  - ・ 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する
- 主として集団や社会とのかかわりに関すること
  - ・ 働くことの大切さを知り、進んで働く

### 【日常生活】

日常的な様々な役割の経験、人間関係

## 指導と評価のポイント

- 校内での活動と地域での活動との関連を図れるように、農家や直売所の方と事前に時間を設けて話し合い、例えば、児童との対話を重視している点など、指導のポイントを確認します。【コミュニケーション能力を活用(駆使)させる】
- 「花や野菜を大切に育てなければならないこと」と「直売所で販売できるような商品にすること」の両方の課題に児童を向き合わせて、農家の人の仕事の工夫や努力をより実感させることを重視して学習を展開します。【職業理解能力を高める】

- ・ 本單元には、生産と販売という働くことをめぐる現実社会の課題を意識させながら、従来から多くの学校で行われている学校農園での活動を再評価するねらいがあります。働くことの厳しさや難しさは、活動を通して気付くものであり、評価については、地域の人々とどれだけ対話できたか、あるいは現実社会の課題に向かってどのようにチャレンジできたかを重視します。

#### ■ 育成を目指す能力・態度と評価規準の例

| 活動                  | 育成を目指す能力・態度                                                                                                                                                                                                                                | 評価規準                                                                                                                                    | 評価資料             |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 栽培の計画準備             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力【情報収集・探索能力】</li> <li>・ 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</li> <li>○人間関係形成能力【コミュニケーション能力】</li> <li>・ 友達と協力して、学習や活動に取り組む。</li> </ul>                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で話し合っ、アイディアを出し合っ、学校農園での栽培のめあてを決めたり、工夫を考えたりする。</li> </ul>                                      | 活動のイメージマップ       |
| 農家での栽培体験、学校農園での栽培活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力【情報収集・探索能力】</li> <li>・ 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</li> <li>○人間関係形成能力【コミュニケーション能力】</li> <li>・ 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの考えていたことと、農家の栽培の実際との違いに気付く。</li> <li>・ 対話やインタビューを通して、農家の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul> | 体験学習シート          |
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○将来設計能力【計画実行能力】</li> <li>・ 計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。</li> </ul>                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家の人から教わったことや学んだことを、栽培の計画や準備、世話や手入れに生かそうとする。</li> </ul>                                        | 栽培計画シート          |
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力【役割把握・認識能力】</li> <li>・ 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> </ul>                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で当番を決めて、世話や手入れをする。</li> </ul>                                                                 | 栽培記録シート<br>当番ノート |
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力【職業理解能力】</li> <li>・ 働くことの楽しさが分かる。</li> <li>・ 係や当番活動に積極的に関わる。</li> <li>【役割把握・認識能力】</li> <li>・ 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</li> <li>○人間関係形成能力【コミュニケーション能力】</li> <li>・ 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの考えていたことと、直売所での販売の実際との違いに気付く。</li> <li>・ 直売所の人との対話や、お客さんとの応対に前向きに取り組もうとする。</li> </ul>      | 体験学習シート          |
| 学習の振り返り             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報活用能力【役割把握・認識能力】</li> <li>・ 日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</li> <li>○人間関係形成能力【自他の理解能力】</li> <li>・ 自分の生活を支えている人に感謝する。</li> </ul>                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校農園での栽培や地域での学習を振り返り、気づいたこと、学んだこと、実感したこと、感謝したことなどをまとめる。</li> </ul>                             | 振り返りシート          |

人とのかかわりの中で学び、  
身に付けたことが生かされる機会を設けましょう。

